

ボランティア・市民活動フェスタ 2018 in 佐倉 体験コーナー報告



穏やかな秋晴れのなか、佐倉市立中央公民館と南側駐車場でフェスタが開催されました。今年もV連の体験コーナーは、佐倉市障がい者団体等連絡会〔テーマ：障害者差別解消法・差別をなくしましょう！〕と一緒に行いました。バルーンアートのボランティアの方の応援もいただき、楽しい雰囲気の中、体験コーナーが始まりました。

日時：2018年11月25日（日）10時～15時
会場：佐倉市立中央公民館1階 ラウンジ
体験コーナー参加者：135名
（大人93名、子ども42名）
スタッフ：計14名（根郷地区社協7名、V連役員7名）

- ◆車いす体験
- ◆疑似体験
（視野狭窄による見えにくさ等の体験）
- ◆障がい者に関するマークのクイズ

日頃生活をしていく上での困り事や不便さを知り、困っている方にさりげなく声をかけられる人が、一人でも増えることを願って、2つのコーナーを設けました。また、参加者に障がい者に関するマークのクイズにも挑戦していただきました。

体験後、付箋にひとこと感想を書いていただき、参加者みなさんの気づきがわかるように、ボードに貼り出しました。付箋23枚の感想が集まりました。

今年は「障がい者に関するマーク」の一覧表を配布しました。

車いす体験

目的

- ・車いすのひろげ方、たたみ方をマスターする。
- ・車いすの乗り方・降り方をマスターする。
- ・車いすを自走するときの操作の大変さや、困ったときに声かけする難しさを体験する。
- ・車いすを介助するとき、声掛けの大切さを知る。

体験概要 車いすのひろげ方・たたみ方を確認した後、正面玄関から外に出て保育園通用門前で折り返して戻ってくる。車いす5台。

参加者の感想など

- ・とても腕力が必要なのがわかりました。
- ・坂道がきつかった。
- ・車いすがこんなに大変という事がわかった。
- ・楽しかったけれどあ疲れた。

車いすの自走を楽しかったという子ども達が多かったですが、車いすを真っすぐに進ませることが難しかったり、下り坂でスピードが出すぎたりと、真剣に車いすを操作している姿がありました。



疑似体験

目的

指先が不自由になり、視野が狭くなることで不便になる事を知る。

体験概要 視野狭窄ゴーグルと軍手をはめる。

- ① 広告から特売品情報などを探す。
- ② 申請用紙に名前を書き込む。

参加者の様子

視野狭窄ゴーグルをつけた途端に、「全然見えない！こんなに見えないんだ…」と、広告や申請用紙だけでなく、周りを見渡していたご夫婦。軍手をつけて一生懸命チラシをめくっていた男の子の姿がありました。



体験コーナーを開催して

体験コーナーは、今年もV連役員のほか、根郷地区社協の皆様のご協力で運営しました。

車いす体験は、子ども（小学生）の体験者が圧倒的に多かったのですが、疑似体験は親子やご夫婦で参加される方が多く、見えにくさ、つかみにくさを共有されていました。また、「障がい者に関するマーク」のクイズを約100名の方が体験。意外にマークが周知されていないことがわかりました。体験後、障がい者団体等連絡協議会の紙芝居を真剣なまなざしで見ると、子ども、アートバルーンを教えてもらう子どももいました。「学ぶこと、体験することで気づく事がたくさんありました」という嬉しい感想がありました。